

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570500225		
法人名	医療法人相愛会		
事業所名	グループホームあつたか村	ユニット名	東館
所在地	宮崎県小林市大字北西方3251-2		
自己評価作成日	平成28年11月1日	評価結果市町村受理日	平成29年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokansaku.jp/45/index_nhp?action=kouhyou_detail_2015_022_kanitrue&amp;liexvosvCd=4570500225-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokansaku.jp/45/index_nhp?action=kouhyou_detail_2015_022_kanitrue&amp;liexvosvCd=4570500225-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内には、園庭があり季節の木々や花を見ながら散歩をする事やベンチが設置しており、そこでゆっくりとくつろいで過ごせる空間があります。事業所の行事等へ地域住民の参加もあり御利用者や地域の方が楽しく過ごされる時間があります。また、近隣の保育園・小学校・中学校の生徒による慰問によりふれあう時間がありゆっくり楽しく生活が出来るように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者及び職員は、全員で作り上げた理念を毎日唱和し、ケアに反映しているか確認し、実践につなげるよう努めている。運営推進会議では活発な意見が交わされ、メンバーからの意見や助言を積極的に取り上げケアの向上に生かしている。月1回開催している全体会議の場では、職員の意見を聞き入れる体制を整えており、新たなトイレの設置やトイレの洗い場で湯が出るようにするなどの改善も行っている。近隣の保育園・小学校・中学校の生徒の来訪もあり、触れ合いの時間を大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	東館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員の意見を取り入れ理念を掲げている。又、誰もがみれる様に掲示板等へ掲示し朝礼・終礼で唱和を行っている。		管理者及び職員は、全員で作成した理念を毎日確認して実践につなげようと努めている。理念の中でも、笑顔で明るく過ごしてもらうことを大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が主催する行事への参加呼びかけや防災訓練への参加をしてもらっているが、日常的な交流や地域の行事への参加がない。		地域住民へホーム行事のチラシを配布して参加してもらったり、地域の人がボランティアで来訪し七夕作りをするなど、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や近隣の小・中学生等のボランティア、職場体験の受け入れを行い、その際に理解を深めて頂いているが、地域住民への認知症の人への理解や支援方法については活かすことが出来ていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて事業所の取り組みについて報告出来ており、会議の場において出た意見を日々のサービス向上に活かしている。		運営推進会議のメンバーの意見でホームの内外に場所を示す標識を設置している。また、遠方にいるため来訪が難しい家族には手紙で近況を伝えるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外にグループホームの運営で困った時は、市町村の担当の方に相談している。又、事業所の行事参加を促し、日々の生活状況についても理解を深めてもらっている。		市担当者が運営推進会議のメンバーでもあり、日頃から連携をとり、何かあるとすぐに相談できる関係を構築している。最近では成年後見人のことで相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会を行っており身体拘束は行っていないが、具体的な行動を全職員が正しく理解していない。		管理者、職員は定期的な勉強会を開催して身体拘束の内容とその弊害について認識し、玄関の施錠はせず、安全で自由な生活を支援している。言葉による拘束ではと思える行動が見られることがあるので検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご利用者の状況に合わせ現在のケアが虐待につながっていないかを全体会議の場で検討している。			

自己	外部	項目	自己評価	東館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について職員の学ぶ機会が少ないのが現状である。現在、これらの制度を利用されている方がおられる。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い不安や疑問点などをお伺いし納得頂いた上で契約を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や相談窓口を設けて直接意見が聴ける雰囲気づくりを心がけている。相談等があった場合は全体会議の場で話し合い改善に向けて取り組んでいる。	ホームの行事への参加時や来訪時に家族から要望や意見を聞いている。家族から洗濯物の仕分けの方法や利用者の髪型についての意見や要望があり、取り入れている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行う全体会議の場で意見を聞く場を設けて必要に応じて反映されている。	運営者、管理者は現場の職員の意見を聞き、運営に生かすよう努めている。リフト車の購入や備品の購入、また、トイレの洗い場に湯が出るようにするなど、敏速に対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況を把握し個々の職場遂行が出来るような時間等の条件とし各自が向上心を持てるような環境となっている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や他の研修等の案内を随時行い参加を呼びかけている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の勉強会への参加を行っている。又、宮崎県グループホーム連絡協議会の研修会やブロック別研修会・交流会や小林市地域密着型サービス連絡会への参加を行いネットワーク作りを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	東館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に至るまで本人や御家族と面会し本人が困っていることや不安な事を聞き取り安心して入居して頂けるように心がけている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談があった場合は、家族の方と面談を行い又、見学に来てもらい不安なく入居して頂くようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人、ケアマネとの面談の場を設け必要としている支援を見極め対応出来る様に取り組んでいる。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、洗濯物干しなど日常的な作業を行ったり個別的な作業や散歩などを行うなど会話が出来る状況を作っている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事がある時は参加の声掛けを行い家族と過ごされる時間を設けたり時間が許される限り面会や外出・外泊の声掛けを行っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時は、自宅にある馴染みの物を多く持ち入れられるように声掛けを行い家族以外の馴染みの方が面会に来られるように家族に伝えている。又、馴染みの場所は、家族の協力を頂いている。	地域の人や知人の来訪が多く、手紙のやり取りも手助けしながら行い、本人が大切にきたなじみの関係が途切れないように支援している。家族と墓参りや理容室に行く利用者もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テレビ前にソファを置いたりフロア内のいたるところにベンチを置き利用者同士が一緒に過ごせるよう工夫している。			

自己	外部	項目	自己評価	東館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御家族の方へ契約終了時に他事業所との連携を図っている事を説明し連絡が図れるように努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中から本人の希望や要望を聞き出し可能な限り本人の希望に添える様に努めている。		自分の思いをうまく伝えられない利用者については関わりの中で、表情や声掛け時の反応でくみ取るようにしている。また、家族から情報を得て判断することもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅等へ訪問し本人との面談を行い担当ケアマネや御家族より意見を頂き把握している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや介護記録、状況チェック表などを利用して全職員が把握できるようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人と御家族、スタッフの意見を取り入れ又、定期的な評価も行いながら介護計画を作成している。		職員間での意見交換やモニタリングを行いながら、利用者、家族の意見・要望を把握し、反映するようにしている。介護計画に即した実施記録も残している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の実践状況を日々の介護記録に記入し、申し送り等を行い見直しに活かしている。又、申し送りノートの活用も行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて受診介助や外出などに対応している。また、特老や老健、病院とも連携を図っている。			

宮崎県小林市 グループホームあつたか村(東館)

自己	外部	項目	自己評価	東館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年間行事にて地域の方のボランティア、園児との交流を図り楽しむ事が出来るようにしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の他、本人及び家族の希望するかかりつけ医となっている。又、受診の際には御家族へ連絡を行い、職員も同伴している。	利用者、家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力医の往診もあり、連携も取れている。受診時には書面での情報提供を行うこともある。医師からの利用者に対する情報は、家族及び職員で共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が勤務しており日常的な健康管理を行っている。生活の中で気付いた情報や気づきを主治医へ報告・必要に応じて受診等の連携を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医や医療機関との情報交換を行っている。又、入・退院の時期についても相談出来る関係作りが出来ている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当医より助言を頂きその都度御家族と話し合いを行い方針の共有をしている。	今までに看取りの事例はない。看取りの指針や同意書を整えており、重度化や終末期に関する指針の説明もしている。ホームは家族や医療関係者と連携を図りながら、本人や家族が安心して納得した最期を迎えられるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応方法について勉強会への参加をしている。又、連絡網を作成し連絡体制を整えている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練・通報訓練を実施している。又、近隣地域の方へ防災訓練の参加を依頼し実際の避難誘導や消火器訓練等へ参加して頂いている。いきいきサロン等の集会時に災害時における協力体制が頂ける様をお願いしている。	年に2回の防災訓練・通報訓練を実施しているが、地区消防団や派出所の警察官、自治会長等の参加がなく、自主的避難訓練や食料、飲料水、オムツ等の備蓄もホーム内ではなされていない状況にある。	地域の人々の協力を得て、一緒に訓練を行うこと、また、備蓄についてはライフラインの寸断を想定した取組を期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	東館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時、職員の教育は行っているが、排泄時の声掛けや拒否時や指示が入らない時などの対応時に徹底されていない時がある。	新人研修で接遇についての研修を行い、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応を伝えているが、十分守られているとは言えない状況にある。	研修が入社時のみである。研修の機会を設け、利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応ができるよう日常的な確認と改善に向けた取組を期待したい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示がある方には選択する機会や希望を聞く機会を設けている事が少なく、意思表示がないご利用者に対して働きかけたり自己決定の場を設けていない。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ本人の希望にそった暮らしをしてもらっているが、職員の都合で生活している時があり希望にそえない時がある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族が美容室に連れて行かれる利用者の方もいらっしゃいます。洗面台にブラシを置いており自ら髪を梳くことが出来るようにしている。衣類に関しては意思表示のない利用者の方は職員の都合で職員が選んでいることが多い。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の状況に応じて利用者と一緒に野菜の皮むき等を行ったりしており食後も自分のお膳を台所まで持って来てもらったり食器洗いをしていただいている。	職員と利用者が一緒に梅干やラッキョウを漬けたりしている。夕食のメニューを一緒に考えて、野菜の皮むきを一緒に行うこともある。家族より新米をもらい、一緒に炊いて食べるなどしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一回の食事量が少ないご利用者には複数に分けて食事をして頂いたり水分チェックを行いながら本人の好きな飲み物を準備して水分補給が出来るようにしている。また、摂取量が少なく栄養バランスの悪い利用者は栄養士に相談を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯のある方はうがいと入れ歯洗浄を行っているが入れ歯のないご利用者はうがい程度である。			

自己	外部	項目	自己評価	東館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を使用しながら排泄パターンを把握し時間誘導を行い出来るだけ失敗無くトイレでの排泄が出来るようにしており出来るだけリハビリパンツから布パンツに変更は行っているが尿取りパットの使用は行っている。	失禁の多い利用者が、排せつパターンを把握しトイレ誘導するうちに、リハビリパンツから布おむつ・パット使用になった事例がある。利用者の状況によりポータブルトイレの使用もしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行いお茶ゼリーや水分調整、運動を行いながら、状況に応じ担当医に報告し便秘予防に取り組んでいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	便失禁時などはすぐに入浴できるように配慮しており毎日時間に関係なく入浴できる体制は整っているが時々業務の都合によりご利用者の希望に添えない時がある。	仲の良い利用者同士で入浴したり、風呂の窓辺で外に咲く花を見ながら入る利用者もいる。業務の都合により希望に沿えない時には、時間を調整している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の傾眠を少なくする為個別に庭の散歩や軽い運動を行いながら夜間安眠出来るように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服が処方された場合は記録に残し処方箋をカルテに入れ全職員が理解出来るようにしている。又、副作用や服薬中の注意点等も日々の申し送りにて看護師より申し送ってもらう事やノートを活用し職員誰もが閲覧出来る様にしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、たたみやテーブル拭きゴミ捨てなど声掛けにて行って頂いている。意思表示がないご利用者などは庭の散歩やボール遊びをするなどの支援をしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事で計画を立てて外出をしているが、その日の希望に添った外出は少ない。個別には、家族の協力を得ながら外出の機会を設けている。	天気の良い日には屋外の庭園で茶を飲みながら外気浴を楽しめるようにしている。庭園の散歩も天気の良い日の日課にしている。家族の協力を得て、外食など戸外へ出掛けられるよう支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	東館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了承を得て所持している方もいますが使う機会があまりない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の訴えがあった場合には家族には連絡を行っており家族から電話があった際も御本人に取次ぎを行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りには花を飾りトイレには空気清浄器の設置やフローアに加湿器の設置を行っており天窓もあり光の調整や音に配慮しながら台所前にテーブルを配置し調理の匂いがするようになっている。		ホールは掃除が行き届き、清潔である。リビングにはテレビや椅子があり、来訪者や家族と一緒に過ごせるようになっている。また、リビングには利用者目線で大きな文字の時計が掛けてあり、利用者が安心して過ごせるように工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローア内に椅子やベンチを設置し個別にゆっくり過ごせる様に工夫している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持って来てもらうよう家族に声掛けを行い家族の写真や置物を置いてあるが本人が落ち着いて暮らせる工夫はされていない。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フローアやトイレ、浴室など手すりの設置を行っている。台所や洗面台は利用者の方に合わせて高さとなっている。			